

自由われらの園

国府高校100周年

国府高校（豊川市）には、商業科の大半が就職している現在、普通科と総合ビジネス科の二つの学科がある。総合ビジネス科は一九四九（昭和二十四）年に商業科として設置された。同校によると、商業科は七〇年代、各学年に二クラスあったが、進学志向の高まりや少子化などの影響で二〇〇五年には各学年一クラスになった。

創立八十周年記念誌によると、高卒の求職者数は企業の海外進出や派遣社員の増加、求人の高学歴化などを背景に全国的に減少。国府高でも一九九三年度まで

商業科の大半が就職していたが、その後は大学や短大などへの進学が増加した。現在は進学が半数程度になっている。

そのため、教科によって、四十人クラスを進路の希望や学習の理解度に合わせ半分に分け、少人数教育を実施。総合ビジネス科主任の平野康之教諭（五三）は「生徒一人一人にしっかりと目が行き届く」と説明する。生徒の理解度に応じ、クラス全体で急ぎよ臨時授業をしたり、小テストを実施したりもする。

国公立大や難関私大を目指す

現代編②

総合ビジネス科



情報処理の授業を受ける総合ビジネス科の生徒たち＝豊川市の国府高で

指す普通科の生徒に感化され、「放課後も熱心に勉強する生徒が多いのが国府の特徴」（平野教諭）とも。日本商工会議所（日商）簿記二級をはじめ各種検定の合格率は県内トップクラスという。

体験入学がきっかけで国府高を選んだ一年生の塚本

羅衣さん（二モ）は「将来は自分の店を経営したい」と資格取得に励む。クラスでただ一人の男子生徒だが「専門科目を学ぶことができて充実している。自分の商売によって、たくさんの人を笑顔にすることが夢」と語る。

国府高によると、総合ビジネス科は商業科時代を含め、これまでに七千人以上の卒業生を送り出した。地元企業や事業所では多くの卒業生が活躍している。

J Aひまわりに勤務する卒業生の赤川奈那さん（三モ）は、高卒での就職を見据え「地元で働くなら伝統がある国府」と入学。授業後も生徒同士で教え合って検定試験の勉強をしたり、学校行事や部活動のソフトボールに打ち込んだり。「社会に出て高校時代の経験が財産になっている。今後も、この地域で頑張っていきたいと思います」

地域支える人材を輩出